

南薩地区におけるサメ有効利用への取り組み

南薩地域振興局林務水産課 林務水産課

【背景・目的】

南薩地域におけるシビ・カツオ等を漁獲する一本釣り漁業では、操業中に漁獲物や漁具をサメに食いちぎられる被害（食害）が問題となっている。その対策として、漁具にサメを寄せ付けない電気忌避装置を試験し、一定の成果が得られているが、サメそのものの数を減らすものではなく、漁業者からは個体数削減の対策を望む声がある。

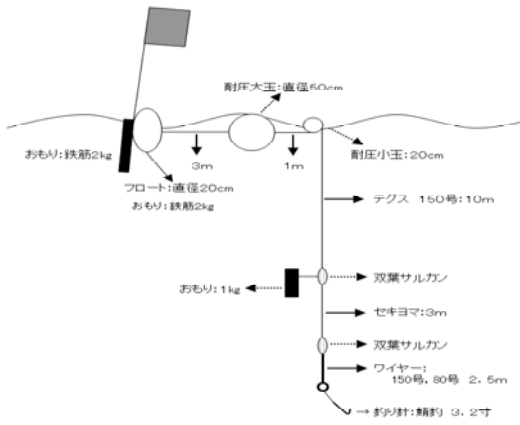
そこで、漁獲の際にサメを仮死させる電気ショック装置を導入し、小型漁船でも安全に駆除できる方法を確立する。また、駆除したサメは、薩摩揚げ等の食品加工等への有効利用を促進し、有害動物から水産資源への転換を図り、サメの有効活用により、漁獲対象とされなかったサメの積極的な漁獲を促し、サメ個体数の削減を目指す。

【普及の内容・特徴】

- 1 枕崎市とともに、普及活動として技術指導を行うと同時に、消耗資材の整備等については地域振興推進事業により支援を行った。
- 2 地域振興推進事業では、以下について取り組んだ。
 - (1) マグロ電撃装置改良によるサメ漁獲応用試験
マグロ等の大型魚類の漁獲に用いられる電撃装置を、危険な水産生物であるサメの漁獲への応用及び安全性を評価するため試験操業等を実施した。
 - (2) 駆除サメの有効利用に関する検討
冷凍すり身の流通によりサメを加工する技術が途絶えつつあるので、サメの加工技術及び流通・消費実態を調査した。

【成果・活用】

- 1 マグロ電撃装置改良によるサメ漁獲応用試験
平成26年3月19日、枕崎市漁協所属の漁業者の漁船を用い、湯瀬周辺において曳縄漁業の漁獲物を生き餌に、旗流し漁具でサメ漁獲試験操業を実施した。試験当日の水温が低く、活動が不活発でのためサメを漁獲できなかった。今後も試験を継続し、加工原料としてサメの安全な漁獲方法の確立を図っていくこととした。
- 2 サメの加工状況聞き取り調査
平成26年2月20日、鹿児島県内でサメを多く加工している鹿児島市宮之浦にある有水屋へ、サメ加工状況調査を行った。サメのさばき方を見学し、買取り価格や、加工の注意点について聞き取りを行った。サメは、加工原料として有効であり、資源としても有効に活用できることが確認できた。



サメの旗流し漁具図



マグロ電撃ショック機器



サメ漁獲実証試験 位置図



サメの旗流し漁業の操業風景



加工調査を実施した有水屋



サメの加工方法の聞き取り



調査当日、加工用の購入されたサメ



サメのさばき方を聞き取り